

富士市総合都市交通戦略

1. 概要

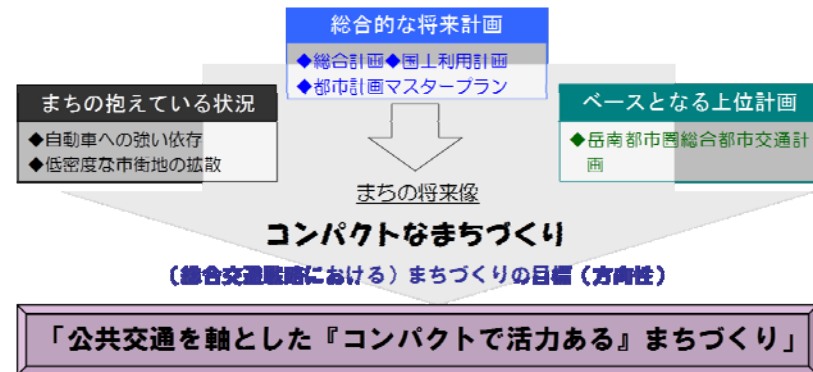
理念 ・ 方針	(政策目標) さまざまな交通手段での安全・安心で快適な移動の実現 (戦略の柱) ・地域の安全・活力を支える交通体系の構築 ・軸となる公共交通による集約拠点間の移動円滑化 ・にぎわいのある「歩いて暮らせる」集約拠点の形成		
	目標年次	平成29年	
位置づけ	総合交通体系調査を受け、徒歩、自転車、公共交通、自動車などの適正化を図り、市民本位の便利な都市交通体系にするために策定。		
	総合交通体系(PT調査)	○	H18
戦略策定範囲	都市圏		
	市域		
	特定エリアのみ	○	都心部

■ (富士市総合都市交通戦略における) まちづくりの目標 (方向性)

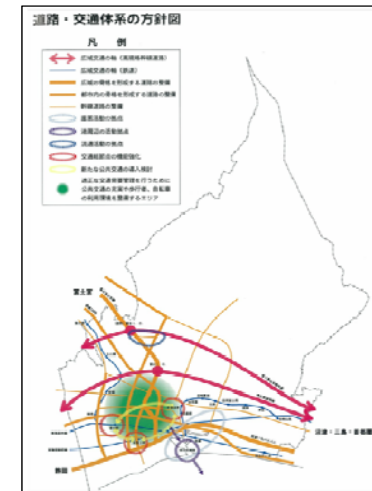
◆ 公共交通を重視した集約型都市構造の実現、バランスのとれた交通体系

*まちづくりのキーワード

- ☆人口減少・超高齢社会の到来、地球環境問題の深刻化、厳しい財政制約
- ☆持続可能なまち、需要追従型から目標達成型への転換、選択と集中
- ☆公共交通を重視した集約型都市構造の実現、バランスのとれた交通体系



出典:第三次国土利用計画 (富士市計画)

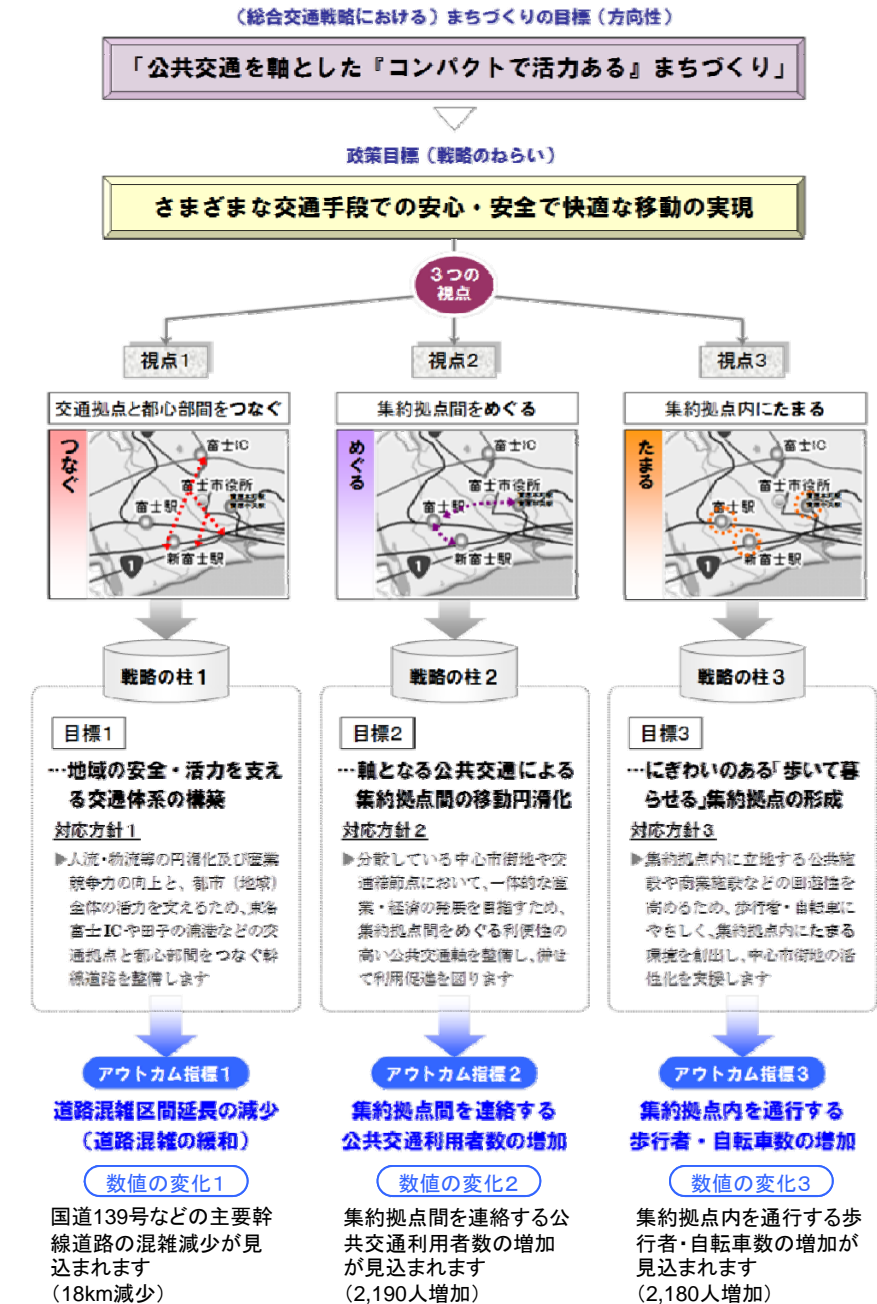


出典:富士市都市計画 マスタープラン

富士市総合都市交通戦略

2. 目標と指標

主な指標	交通	交通手段別分担率	
		一定時間アクセス可能圏域人口(拠点等)	
		中心部歩行者数	○
		自転車交通量	○
		公共交通カバーエリア	
		バス利用者数	○
		鉄道、路面電車利用者数	○
	社会	DID内人口密度	
		中心部居住人口・公共交通サービス圏域人口	
		商品販売額	
環境	交通事故件数、死傷者数		
	C02排出量		
その他指標		道路混雑区間の減少	○



3. 展開施策(1)



3. 展開施策(2)

施策分類	主要施策
歩行者施策	
自転車施策	<ul style="list-style-type: none">・自転車走行モデル空間の整備・自転車ネットワーク整備計画の策定
公共交通施策	<ul style="list-style-type: none">・新しい交通システムの導入(DMV)・公共交通サービスの改善・向上・公共交通走行空間の整備・公共交通の利用促進
交通結節点	<ul style="list-style-type: none">・バリアフリー化や乗り継ぎ施設の整備・C&R、C&BR・富士駅、新富士駅の駅前広場の整備
自動車施策	<ul style="list-style-type: none">・都市計画道路などの整備・ボトルネック交差点の渋滞緩和
駐車場施策	
MM施策	<ul style="list-style-type: none">・自動車利用の仕方工夫
その他	

3. 展開施策(3) 取り組みメニューの概要

4つの対策／取り組みメニュー		概要
道路	① 都市計画道路などの整備	自動車交通の円滑化に向け、重点的に整備すべき都市計画道路などの路線・区間を選択(明確化)し、集中的な整備を実施する。
	② ボトルネック交差点の渋滞緩和	交通渋滞の緩和に向け、ボトルネックとなっている交差点において、交通容量を増大させる方策を検討し、具体的な事業を実施する。
自転車	① 自転車走行モデル空間の整備	自転車需要が多く、主要な交通拠点を結ぶ区間を「自転車走行モデル区間」とし、自転車走行環境の整備について、検討し、具体的な事業を実施する。
	② 自転車ネットワーク整備計画の策定	自転車を都市交通システムのひとつとして明確に位置づけ、自転車に係る基本的な計画を策定し、走行環境のネットワーク化などを検討し、事業を実施する。
公共交通	① 新しい交通システム(DMV)の導入	利便性の高い公共交通軸を形成し、シームレスなネットワークを構築するためDMVの事業化を推進し、供用開始に向けた取り組みを展開する。
	② 公共交通サービスの改善・向上	公共交通サービスの向上に向け、路線バスやコミュニティバスなどの走行施設、停車施設、運賃制度について検討し、改善を図る。
	③ 公共交通走行空間の整備	公共交通の快適な走行空間を形成するため、定時性を向上させる方策や交差点での優先方策について検討し、具体的な事業を実施する。
	④ 自動車利用の仕方の工夫	過度の自動車依存からの脱却を図り、自動車の賢い使い方を促進するため、モビリティ・マネジメントによる意識啓発を継続的に実施する。
	⑤ 公共交通の利用促進	公共交通に対する関心を高め、利用者の拡大を図るため、公共交通に関するイベントなどのPI・PR活動を継続的に実施する。
交通結節点	① バリアフリーや乗り継ぎ施設の整備	交通結節点や中心市街地において、誰もが利用しやすい移動環境の創出と、移動円滑化の推進を目指し、バリアフリー化に対応した施設を整備する。
	② C&R や C&BR 環境の整備	交通結節点において、移動しやすい交通環境を創出するため、乗り継ぎの利便性を向上させる施設を検討・計画し、具体的な事業を実施する。
	③ ニーズに応じた駅前広場等の整備	本市の玄関口である交通結節点において、ハブ機能を充実させる施設の改良を検討し、具体的な事業を実施する。

富士市総合都市交通戦略

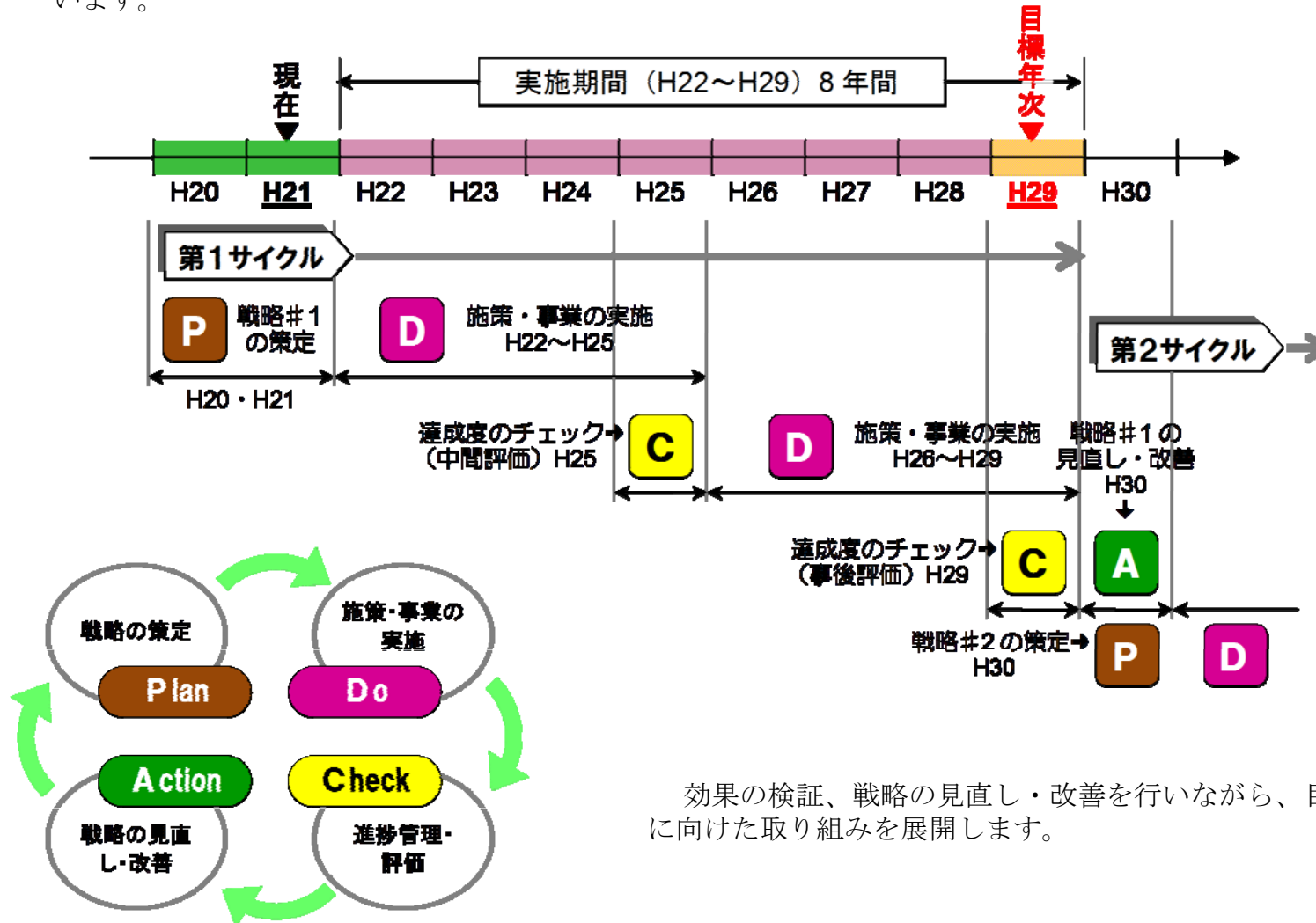
3. 展開施策(4) 実施主体と予定スケジュール

	4つの対策／取り組みメニュー	実施主体	スケジュール(予定)							
			H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
道路	① 都市計画道路などの整備	国、静岡県 富士市	実施(継続路線)、検討・計画・実施(新規路線)							
	② ボトルネック交差点の渋滞緩和	富士市、 民間事業者	検討・事業の実施							
自転車	① 自転車走行モデル空間の整備	富士市 (国、静岡県)	検討・事業の実施							
	② 自転車ネットワーク整備計画の策定	富士市	計画	検討・事業の実施						
公共交通	① 新しい交通システム(DMV)の導入	富士市、 交通事業者	事業化の推進・供用開始に向けた取り組み							
	② 公共交通サービスの改善・向上	富士市、 交通事業者	検討・改善							
	③ 公共交通走行空間の整備	富士市、 公安委員会	検討・事業の実施							
	④ 自動車利用の仕方の工夫	富士市、 交通事業者	継続的に実施							
	⑤ 公共交通の利用促進	富士市、 交通事業者	継続的に実施							
交通結節点	① バリアフリーや乗り継ぎ施設の整備	富士市、 交通事業者	施設の整備							
	② C&R や C&BR 環境の整備	富士市、 交通事業者	検討・計画・事業の実施							
	③ ニーズに応じた駅前広場等の整備	富士市	検討・事業の実施							

4. 総合交通戦略の推進及び評価

戦略の策定（Plan）、施策・事業の実施（Do）、進捗管理・評価（Check）、戦略の見直し・改善（Action）を繰り返すPDCAサイクルによって事業を推進します。

戦略の評価・改善は4年単位とし、関係機関で構成される評価委員会（仮称）等により、継続的な進行管理を行います。



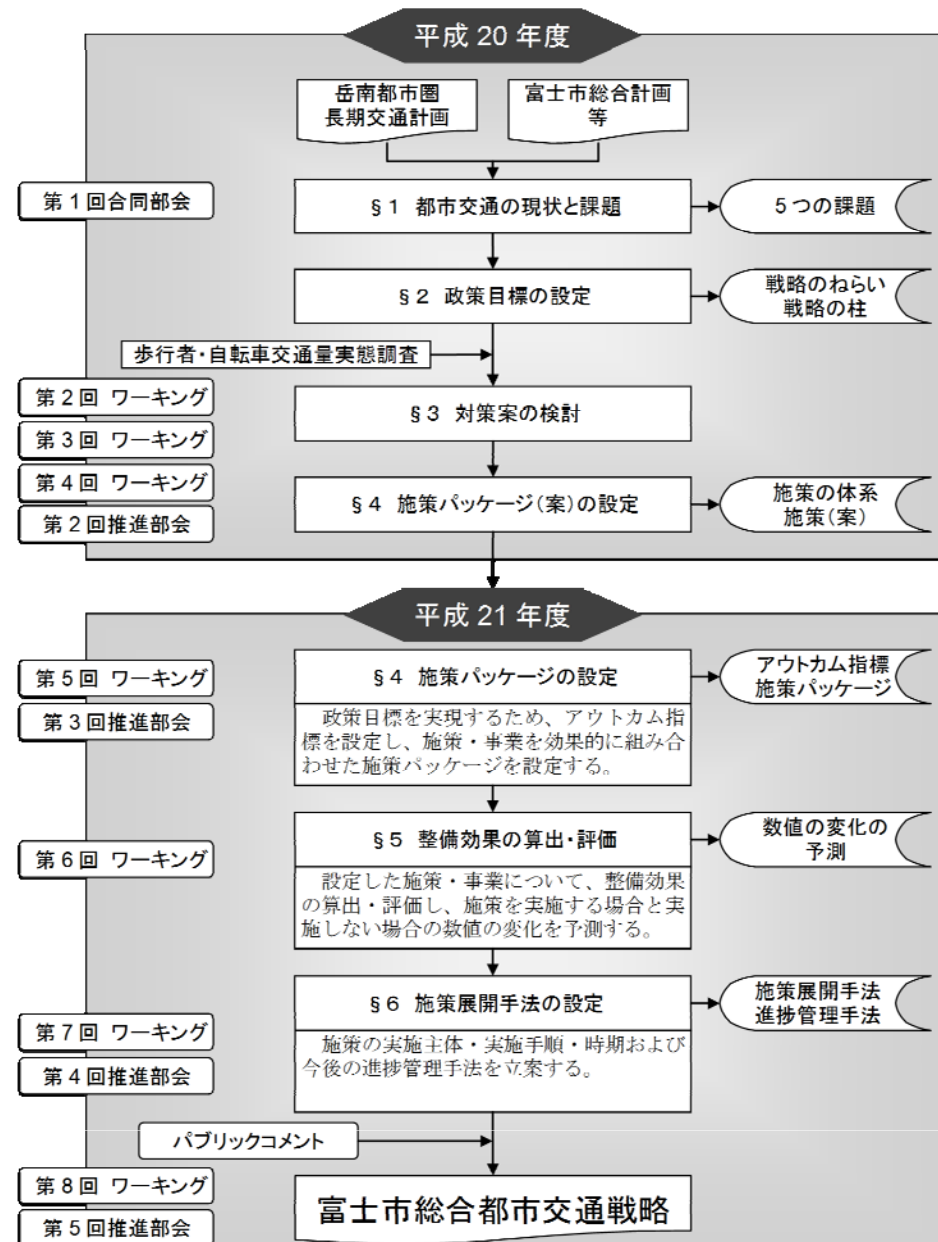
効果の検証、戦略の見直し・改善を行いながら、目標達成に向けた取り組みを展開します。

5. その他(戦略報告書の構成・特徴等)

- 設定したアウトカム指標の達成に向け、施策・事業を効果的に組み合わせた施策パッケージを設定し、数値の変化を予測した。
- 数値の変化(まちの変化)は、将来(平成29年度)のWithout値(策を講じない場合の値)とWith値(戦略による事業を実施した場合)をそれぞれ分析・算出し、予測した。

(報告書の構成要素について)

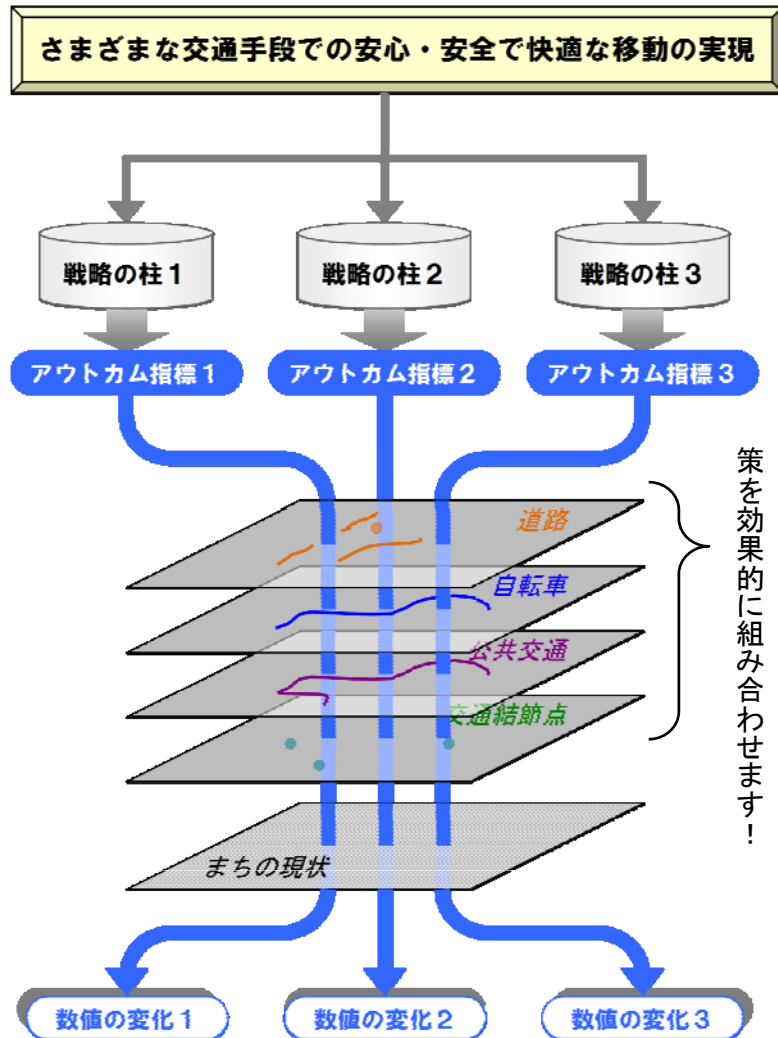
将来像	将来都市像の明示	○
	具体的な将来イメージの提示	○
現状分析	データに基づいた分析	○
	現状と将来のギャップ分析	
評価	数値目標の設定	○
	評価方法・PDCAの明示	○
施策展開	施策のパッケージ化	○
	施策プログラムの明示	○
	予算の明示	



富士市総合都市交通戦略の体系(階層構造)

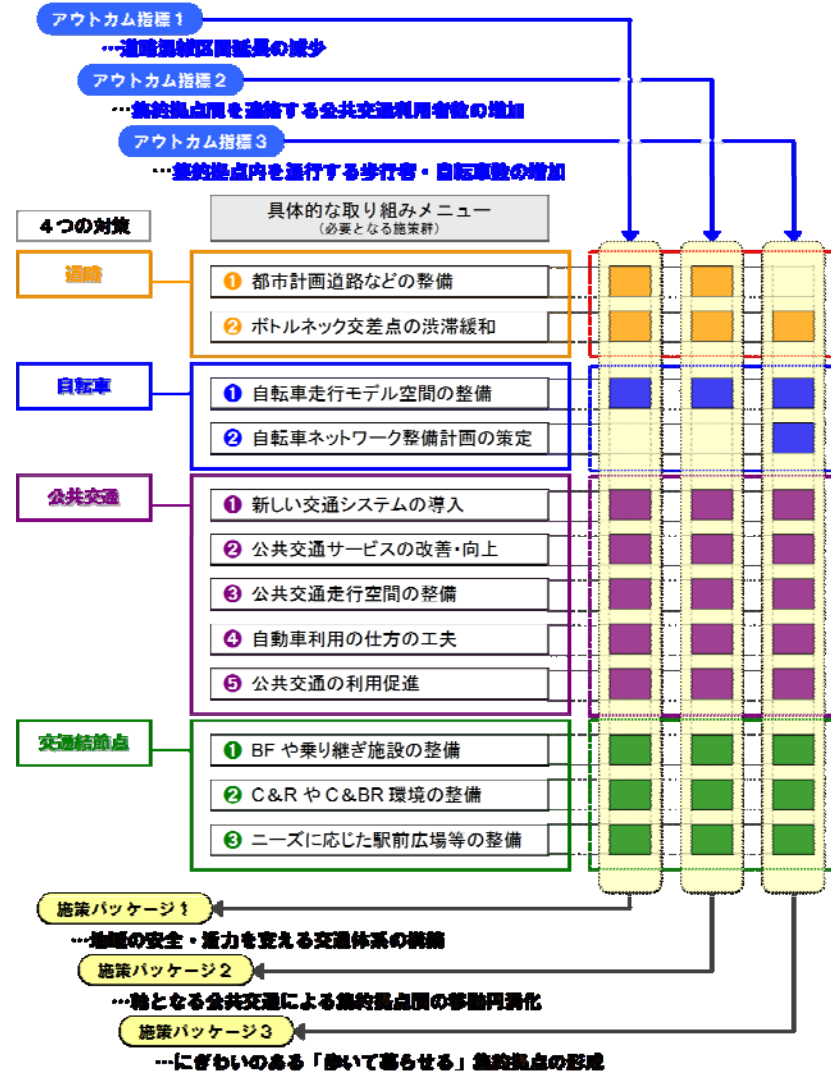
設定したアウトカム指標の達成に向け、道路の整備、自転車環境の改善、公共交通の充実、交通結節点の整備に大別される施策・事業を効果的に組み合わせた施策パッケージを設定し、数値の変化を予測しました。

●富士市総合都市交通戦略の体系(階層構造) 政策目標(戦略のわらい)



4つの分野(道路、自転車、公共交通、交通結節点)に大別される個別施策を効果的に組み合わせます！

●アウトカム指標と施策パッケージの設定



数値の変化(まちの変化)の予測

数値の変化(まちの変化)は、将来(平成29年度)のWithout値(策を講じない場合の値)とWith値(戦略による事業を実施した場合)をそれぞれ分析・算出し、予測しました。

